

協同組合のアイデンティティに関するICA声明

定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

原則

協同組合原則は、協同組合がその価値を実践に移すための指針である。

【第1原則】自発的で開かれた組合員制

協同組合は、自発的な組織である。協同組合は、性別による、あるいは社会的・人種的・政治的・宗教的な差別を行わない。協同組合は、そのサービスを利用することができ、組合員としての責任を受け入れる意思のある全ての人々に対して開かれている。

【第2原則】組合員による民主的管理

協同組合は、その組合員により管理される民主的な組織である。組合員はその政策決定、意思決定に積極的に参加する。選出された代表として活動する男女は、組合員に責任を負う。単位協同組合では、組合員は（一人一票という）平等の議決権をもっている。他の段階の協同組合も、民主的方法によって組織される。

【第3原則】組合員の経済的参加

組合員は、協同組合の資本に公平に拠出し、それを民主的に管理する。その資本の少なくとも一部は通常協同組合の共同の財産とする。組合員は、組合員として払い込んだ出資金に対して、配当がある場合でも通常制限された率で受け取る。組合員は、剰余金を次の目的の何れか、または全てのために配布する。

- 準備金を積み立てることにより、協同組合の発展のため、その準備金の少なくとも一部は分割不可能なものとする
- 協同組合の利用高に応じた組合員への還元のため
- 組合員の承認により他の活動を支援するため

【第4原則】自治と自立

協同組合は、組合員が管理する自治的な自助組織である。協同組合は、政府を含む他の組織と取り決めを行ったり、外部から資本を調達する際には、組合員による民主的管理を保証し、協同組合の自主性を保持する条件において行う。

【第5原則】教育、訓練および広報

協同組合は、組合員、選出された代表、マネジャー、職員がその発展に効果的に貢献できるように、教育訓練を実施する。協同組合は、一般の人々、特に若い人々やオピニオンリーダーに、協同組合運動の特質と利点について知らせる。

【第6原則】協同組合間協同

協同組合は、ローカル、ナショナル、リージョナル、インターナショナルな組織を通じて協同することにより、組合員に最も効果的にサービスを提供し、協同組合運動を強化する。

【第7原則】コミュニティへの関与

協同組合は、組合員によって承認された政策を通じて、コミュニティの持続可能な発展のために活動する。

協同組合のアイデンティティに関するICA声明とは、国際協同組合同盟(ICA)が1995年のマンチェスター総会で決めた、21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す新しい協同組合の定義、価値、原則です。

サステナビリティ レポート 2024

Sustainability
Report



誰もが笑顔で暮らせる社会。
あらゆる命が豊かに循環する地球。
未来のために、今、私たちにできること。

ごあいさつ

生協コープかごしま 理事長

上 城 秀 人



ご挨拶	03
SDGsの達成に向けて	04
2030年ビジョン（長期方針）	06
2030年ビジョン第1の柱 生活者の食と暮らしを守ること	08
2030年ビジョン第2の柱 よりよい組織（生協）をつくること	10
2030年ビジョン第3の柱 “ひらかれた生協”として、地域とつながること	12
2030年ビジョン第4の柱 「コープSDGs行動宣言」の活動を進めること	15
生協コープかごしまの概要	22

■私たちは、世界的課題であるSDGs（持続可能な開発目標）の取組みを日常の事業課題・活動・運動課題として捉えています。その具体化として「生協コープかごしま2030年ビジョン（長期方針）」で、組合員、職員、地域のすべての皆様とより良い社会と暮らしの実現を目指すことを目標に掲げてきました。

■2024年度も私たちを取り巻く情勢は大きく変化し、暮らしに様々な影響を及ぼしています。その暮らしを守るために「平和」「環境（地球温暖化）」「食料（自給率）」「社会保障（相互扶助）」の4つを大きな切り口として進めています。

■国際的な紛争と緊張状態が続いています。暮らしを守ることの基本は平和であり、平和とは何かを問いかね、忘れないための「平和のつどい」の取り組みなど創立以来、大切にしています。

■地球温暖化は異常気象をもたらし、農業や漁業に従事する方々や、消費者の暮らしに様々な影響しています。地球温暖化の原因となるCO2の排出量を削減するために、節電や節水、エネルギー消費を抑えることなどの大切さを伝えるとともに、現在、新たなリサイクル活動のひとつとして、店舗に持ち寄られた家庭の廃食用油や、店舗で使用済みとなった廃食用

油を独自に精製した燃料を配達車に活用する取り組みを進めています。

■また、食料のテーマでは、県内産品の消費拡大を進めることで地域の自給率向上のためのフードマイレージを広げていくことも継続した課題です。

■あわせてエシカル消費（倫理的消費）の活動として、全国の生協と一緒にコープ商品を利用することで、飢餓に苦しむ子どもたちの命と未来を守るユニセフを通じた活動や、枯渇する漁業資源や森林資源を守ることにつなげています。

■相互扶助の組織として人に寄り添い、地域に寄り添い、「誰一人取り残さない」社会的包摂の理念のもとで、ちょっとした暮らしのお手伝い「くらしの助け合いの会」活動、自治体や社会福祉協議会、自治会、福祉施設などとの連携による買物困難地域のみなさんへの「買物支援」「お弁当配達」なども大切な活動として継続・発展を目指しています。

このレポートをぜひお目通しいただき、忌憚のないご意見ご指導をお寄せくださることをお願い申し上げます。ながら、発刊の言葉とさせていただきます。

SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けて。

生協コープかごしまは、**持続可能な社会の実現**を目指します。

生協コープかごしまは、「よりよき生活(くらし)と平和のために」「ひとりがみんなのために みんながひとりのために」「安心して暮らし続けられる地域社会づくりのために」をスローガンとする、協同と助け合いの組織です。
世界の課題を解決し、よりよい未来を迎えるために、国連が掲げたSDGs(持続可能な開発目標)の「誰も取り残さない」という基本精神は、私たちの理念と大きく重なるものでした。そこで、生協コープかごしまは、組合員活動と事業を通して、SDGsの目標である「持続可能な社会の実現」に取り組んでいくことを表明します。

目標1. 貧困をなくそう
・ユニセフお年玉募金

目標2. 飢餓をゼロに
・レッドカップキャンペーン

目標3. すべての人に健康と福祉を
・くらしの助け合い活動
・福祉事業の推進
・ピンクリボン運動

目標4. 質の高い教育をみんなに
・組合員活動(学習会、産地工場見学、商品の試食と普及など)
・子育てひろば、子ども研究センターとの取り組み

目標5. ジェンダー平等を実現しよう
・男女共同参画の取り組み

目標6. 安全な水とトイレを世界中に
・コアノンスマイルスクールプロジェクト

目標7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
・始良市に太陽光発電施設設置
・太陽光発電の設置(出水店・かのや店・始良店・川内店・国分店・田上店・宇宿店・かせだ店)



生協コープかごしま SDGsの取り組み

目標17. パートナースhipで目標を達成しよう
・地域における見守り活動に関する協力協定
・災害時における食糧等物資の供給協力に関する協定
・包括的業務協力協定

目標16. 平和と公正をすべての人に
・平和を守る活動の推進

目標15. 陸の豊かさも守ろう
・NPO法人若草会との「里山」活動
・FSC認証商品の普及
・レインフォレスト・アライアンス認証商品の普及
・産直(産地直結)商品の普及

目標14. 海の豊かさを守ろう
・NPO法人くすの木自然館との「里海」活動
・MSC認証、ASC認証商品の普及
・環境募金

目標13. 気候変動に具体的な対策を
・『2030温室効果ガス削減計画』の実践
・廃食用油を活用したバイオディーゼル燃料の活用

目標12. つくる責任 つかう責任
・エシカル消費の普及
・買い物袋持ち寄り運動(レジ袋削減)
・リサイクル回収の取り組み
・食品ロスの削減

目標11. 住み続けられるまちづくりを
・地域見守り活動
・被災地支援活動
・くらしの助け合い活動
・買い物支援(移動店舗・買い物送迎)

目標10. 人や国の不平等をなくそう
・フェアトレード商品の普及



知っていますか？

SDGs

SDGs(エス・ディー・ジーズ Sustainable Development Goalsの略)とは、世界が抱える課題を解決し、ずっと先の未来まで持続可能な社会をつくるために、2015年9月に国連総会で採択された目標のこと。日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。貧困や飢餓、環境やエネルギー、世界平和、教育、人権など、多岐にわたる分野を網羅する17の目標が掲げられており、先進国・発展途上国に関わらず、世界中の人々が協力して取り組むべき課題や行動計画を示したものです。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも 経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナースhipで目標を達成しよう



生協コープかごしま 2030年ビジョン（長期方針）

つながる力で、豊かな
「地域の食と暮らし」の創造を。

第1の柱

生活者の食と暮らしを守ります

私たちは、この先10年の最優先課題として
事業経営の安定と成長をめざし、
生活者の食と地域の暮らしをしっかりと守ります。

- 事業経営の安定化と成長を図ります。
- 食と健康の取り組みを深化させます。
- 「食の地域内循環」を大切にします。



第2の柱

よりよい組織（生協）をつくります

私たちは、組織の基礎である組合員と職員の
つながりを深め、それぞれがいきいきと
輝ける生協をつくります。

- 組合員誰もが参加しやすい運営のあり方をつくります。
- 職員がやりがいと希望をもてる組織をつくります。
- 事業と組合員活動がつながる仕組みをつくります。
- 地域社会から期待され、感謝される組織をつくります。



第3の柱

“ひらかれた生協”として、地域とつながります

私たちは、「つながる」「ひらかれた」をキーワードに、
生活インフラの一つとして
地域社会になくてはならない存在になります。

- より多くの人と「つながる」生協をつくります。
- 地域社会に「ひらかれた」生協をつくります。
- 自治体とも協力し、持続可能な地域社会づくりに努めます。
- 食・医療福祉・住のつながりを深め、安心できる社会環境をつくります。



第4の柱

「コープSDGs行動宣言」の
活動を進めます

国連が採択した「SDGs（持続可能な開発目標）」
に基づいて、全国の生協がともに確認した
「コープSDGs行動宣言」の活動を推進します。



1. 持続可能な生産と消費のために、
商品とくらしのあり方を見なおします
目標12（つくる責任つかう責任）



2. 誰もが安心してくらし続けられる
地域社会づくりに参加します
目標11（住み続けられるまちづくりを）



3. 健康づくりの取り組みを広げ、
福祉事業・助け合い活動を進めます
目標3（すべての人に健康と福祉を）



4. 核兵器廃絶と世界平和の実現を
めざす活動を推進します
目標16（平和と公正をすべての人に）



5. 地球温暖化対策を推進し、
再生可能エネルギーを利用・普及します
目標7（エネルギーをみんなに そしてクリーンに）
目標13（気候変動に具体的な対策を）



6. 世界から飢餓や貧困をなくし、
子どもたちを支援する活動を推進します。
目標1（貧困をなくそう）



7. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が
共生できる社会づくりを推進します
目標5（ジェンダー平等を実現しよう）

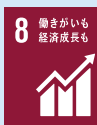


組合員、職員、地域の皆様と共有し、
よりよい社会とくらしの実現を目指します。

生活者の食と暮らしを守ること

事業経営の安定化と成長を図ります。食と健康の取り組みを深化させます。
食の地域内循環を大切にします。

生協
品質



生協コープかごしまの品質への取り組み（2023年度）

- 店舗内加工惣菜・水産の製造環境・製造管理の改善を進める取り組みでは、のべ38回の店舗点検・器具検査、商品検査を行いました。
- 取引先工場点検及び生協産直センター点検では、生協コープかごしまプライベートブランド製造先13工場、のべ21工場の点検を実施。計画的に商品検査を実施し、品質の向上と製造手順製造環境改善の取り組みを行いました。
- 2,828検体、13,252項目の微生物モニタリング検査を実施仕様書の審査や表示の審査を手順に沿って実施しました。
- 仕様書審査379件、表示審査371件を行いました。
- 日本生活協同組合連合会では、工場点検を1,075件、商品検査を13,194件行っています。

産地や工場見学・商品学習会

生協コープかごしまでは、「産直＝産地直結」をモットーに、生産者と消費者（組合員）が直接つながり、ともに成長していくために、様々な学びの場や交流の機会を設けています。組合員が生産者やメーカーを訪ね、こだわって作っている商品について学ぶ「産地工場見学」、商品のこと、暮らしのこと、社会のことなどを学ぶさまざまな「学習会」がコープではおなじみです。2023年度は25件の産地見学、173件の学習会が開催されました。



商品開発を中心にしたいろいろな取り組み

●商品政策委員会

2023年度は年間8回の開催となりました。「ゲノム編集技術応用食品」について講師を招き概要を学び課題点をまとめ、組合員の学習資料を作成しました。作成した資料をもとに各地域での学習会開催を行いました。また、コープ九州の商品調達政策についての意見交流や食品添加物の学習から、生協コープかごしまがこれまで取り組んできた歴史的な経過を学ぶ機会となりました。

●商品開発委員会

2023年度オリジナルクリスマスケーキは、鹿児島北エリア（吉野店）で開発改善委員会を開催し、おせちについては鹿児島北エリア（城西店）で開発改善委員会を開催しました。今年はコロナ禍で中止していた試食や意見交換など、以前の開発改善委員会と同様に実出席の参加形式で実施しました。各3回の委員会開催で開発改善に取り組みました。また、南薩西エリアでは「さつま南高梅」（梅干し）の開発、日置エリアでは「国産大豆揚げとうふ3枚」の包材の改善提案を行っています。



●ゲノム編集応用技術食品の学習会

2024年1月から2月にかけて、「ゲノム編集技術応用食品」の学習会をオンライン含む県内7会場で開催しました。この学習会は、ゲノム編集食品やその技術の概要、課題とされていること（安全性の評価、表示、これから懸念されること、世界の種苗業界から見えてくる食糧システム）、生協コープかごしまとしての考え方や対応の理解を深めることを目的としています。

●協同組合間提携／smile ring商品

生協コープかごしま、Aコープ鹿児島、JA鹿児島県経済連が共同で開発した「smile ring（スマイルリング）」商品では、2023年度新たに「鹿児島県産大豆100%使用ひきわり納豆」の供給を開始しました。2024年度は新たに「かごしまのお米でつくったこめ粉」、鹿児島県産牛乳を50%使用した「かごしまミルクバー」の供給を行っています。



●産直二者認証委員会

農産では2023年度、地元に近い認証委員にお集まり頂き18産地の認証審査を実施しました。また新しい産直玉ねぎの産地としてJAそらち南・玉葱振興会の審査を実施しました。畜産では、産直黒豚は組合員との交流を交えコープかのや店で開催しました。産直豚・産直牛・産直若鶏3産地については事務局による書類審査を実施しました。たまごについては、鶏インフルエンザ発生状況を踏まえ事務局での書類審査を行いました。米は有明（なつほのか）、始良（ひのひかり・あきほなみ）、伊佐（ひのひかり）、北さつま（さつま雪もち）の認証審査を行いました。

●地域との取り組み

農業高校との取り組みは、市来農芸高校（伊集院店）、国分中央高校（国分店）、鶴翔高校の農産品（出水店）に続き、新たに山川高校（指宿店）で始まりました。母の日のカーネーションは、鹿屋農業高校と鶴翔高校で取り扱いが進んでいます。「鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会」への寄付を本年も継続しました。「うなぎ資源対策協力金」の支援金の一部は増殖対策事業の密漁監視、保護増殖活動、試験研究事業（石倉カゴ設置、ウナギ等の水産動物の調査、放流調査、効果的な放流手法の検討）に使用されています。生産地域との連携した取り組みとして今年で13年目を迎えた「しぶしの夏そば」は前年販売実績を超過し、7月期の定着した取り組みとなっています。

よりよい組織（生協）をつくること

組合員誰もが参加しやすい運営の在り方を作ります。職員がやりがいと希望を持てる組織を作ります。事業と組合員活動が繋がる仕組みを作ります。地域社会から期待され感謝される組織をつくります。



くらしの助け合い

「ひとりがみんなのために、みんながひとりのために」が生協の合言葉。誰もが笑顔で安心して暮らすためには、助け合いの精神が不可欠です。生協コープかごしまには、組合員同士が助け合うための仕組みや活動がたくさんあります。



くらしの助け合いの会

1986年（生協コープかごしま15周年）に始まった「くらしの助け合いの会」は、くらしの中の家事援助を中心に、援助を受けたい組合員と、それをお手伝いしたい組合員とが互いに助け合い、支え合う有償活動です。また誰でも気軽に立ち寄れる「おしゃべりひろば」や「ようこそパーティー」なども行っています。



介護予防教室「よかよかひろば」

地域の方が楽しく交流する場として、2023年度は、毎月1回の「よかよか体操」と「ぼっちゃ」[輪投げ]の運動と「おしゃべりタイム」を4店舗（紫原店・南谷山店・城西店・吉野店）で開催し229人の参加がありました。



子育てひろば

赤ちゃんや小さな子ども連れで気軽に参加し、いつ来てもいつ帰ってもいい「ノンプログラム」の交流できる場として開催しています。2023年度は、17店舗のひろばで、のべ290組、595人が参加しました。

「はじめてばこ」のお届け

2018年からKTSテレビの「はじめてばこ」プレゼントに特別協賛しています。プレゼントをご自宅にお届けするのは、生協コープかごしまの職員です。



文化の継承

さつまお笑い劇場

生協コープかごしまの提供で、毎週日曜日の10時～10時30分、MBCラジオで放送している「さつまお笑い劇場」。日常の出来事をユーモラスに鹿児島弁で表現する「さつま狂句」などを中心に、地域の話し言葉や文化を継承しています。

文化鑑賞会『まい・夢』

『まい・夢（まいむ）』は、心豊かな暮らしをめざして、組合員が毎月の会費を積み立て、年間3～4回の生の舞台（例会）を観る会員制の文化鑑賞会です。企画・運営などは会員自身で行い、自分たちが楽しみながらよりよい芸術文化の継承を行っています。2023年度は、7月に第71回例会「桃月庵白酒・三遊亭兼好二人会」、11月に第72回例会「わらび座創立70周年記念作品 ミュージカル 北斎マンガ」を開催しました。また3月には、昨年度から2回目となる宝山ホールとの共催企画として、第73回例会「小野リサ ボサノヴァ・コンサート」を開催しました。



2023年11月例会
ミュージカル 北斎マンガ

くらしの見直し

家計グループのメンバーやライフプランアドバイザーの資格を持つ組合員によって、暮らしやお金に関する様々な取り組みが行われています。

LPA

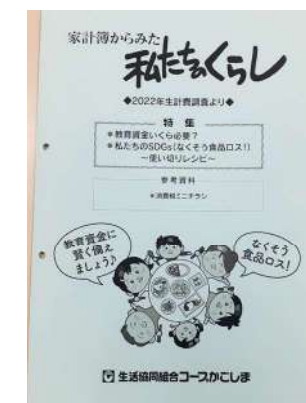
LPA（ライフプランアドバイザー/生協版ファイナンシャルプランナーのこと）の資格を有する組合員メンバーが、ライフプランや生命保険の見直し、自動車保険、火災保険、年金、税金などの学習会を県内各地で実施しています。2023年度は18会場で開催し、166人が参加しました。



学習会の様子

家計グループ

家計グループでは、家計簿のつけ方から料理、税金、保険、年金、教育資金、住宅資金、老後の生活まで、人には聞きにくいお金のことを仲間と楽しく学んでいます。



「家計簿からみた私たちがくらし」を毎年発行しています。

消費者被害の防止



鹿児島国際大学での消費生活講座

消費者ネットワークの支援

生協コープかごしまが参加する「NPO法人消費者ネットワークかごしま」は、弁護士や司法書士、消費生活相談員、大学の教員などの法律の専門家や消費者団体等で構成しています。不当な勧誘や契約の差止請求の訴訟が起こせる適格消費者団体（内閣総理大臣認定）の認定を2022年6月に受けました。消費者被害の未然防止・拡大防止のために、事業者への改善の申し入れや、啓発活動を行っています。

2030年ビジョン第3の柱

“ひらかれた生協”として、 地域とつながること

より多くの人と「つながる」生協をつくります。地域社会に「ひらかれた」生協を作ります。
自治体とも協力し、持続可能な地域社会づくりに努めます。
食・医療福祉・住のつながりを深め、安心できる社会環境を作ります。



地域と連携してよりよい社会の実現を目指しています

それぞれの地域の店舗や個配・共同購入のネットワークにおいて、
その地域で暮らす高齢者や子ども、障がいを持つ方など、支援を必要とする方たちの
見守りや自然災害時の地域支援に向けた協定を多くの自治体と結んでいます。

自治体との地域見守り活動の協力協定

生協コープかごしまでは、地域で支援を必要とする方々（高齢者、子ども、障がいを持つ方など）を見守り、支えていくために、鹿児島県内のいくつかの自治体*や
社会福祉協議会と協力協定を結んでいます。

*日置市、薩摩川内市、指宿市、志布志市、曾於市社会福祉協議会、
垂水市、霧島市、さつま町、枕崎市、鹿屋市、出水市、奄美市

災害時の物資供給協力の協定

生協コープかごしまは、災害時の食糧などの物資の供給に関する協定を8行政*と
締結しています。

*鹿児島市、霧島市、志布志市、日置市、薩摩川内市、南九州市、始良市、曾於市と締結しています。

包括的業務協力協定

南さつま市と地産地消の推進、地域の
安全・安心の確保、高齢者・障がい者
支援、健康・食育、子育て、環境、エネ
ルギー、防災・災害対策、情報発信、
観光振興、地域活性化等11項目に
ついての包括的な協力協定を締結
しています。

子どもたちの安全見守り

鹿児島県による「子ども110番」と連帯し、店舗や
配達トラックを「コープこども110番」として、子どもが
事件や事故に巻き込まれないように見守る取り組みを
行っています。新入学1年生にコープのキャラクターが
付いたランドセルカバーを鹿児島県内の小学校425校に
13,834枚を寄贈しました。



ランドセルカバー



霧島市とは「地域貢献活動協定」を結んでいます

お買い物支援

生協コープかごしまでは、買い物に行きたくても行けない、買ったものを持ち帰ることができない、調理を
することが困難など、地域のみなさまの多様化する「食の困りごと」に対して、様々な活動や取り組みを
行っています。週に1回、決まった曜日・時間帯にお届けする「個別配達」（お1人でご利用可能。冷蔵・
冷凍品は、蓄冷材・ドライアイスと一緒に保冷箱に入れてお届け。配達手数料は週1回、220円。手数料
が減額されるサービスがあり）以外にも、以下のような支援を行っています。

移動販売・店舗ふれあい便・地域訪問ふれあい便

生協コープかごしまの移動店舗は薩摩川内市との連携でスタートし、
現在、薩摩川内市といちき串木野市の一部で運行しています。また
しほし店でも移動店舗の運行が始まりました。また、麦の芽福祉会の
移動店舗（鹿児島市と近隣を運行）を支援しています。店舗ふれ
あい便は「お買い物代行」と「お買い上げ配達」の形式で、16店舗
（鹿児島市内10店舗、市外6店舗）で活動しています。



川内店の1トン移動店舗車



入来朝陽楽しいお買い物クラブ

「無店舗配達と公民館活動の連携による生協
コープかごしまの新しい買い物支援活動」と
して、2021年に薩摩川内市入来町で「入来朝陽
楽しいお買い物クラブ」がコミュニティ協議
会、社会福祉協議会、地域組合員、無店舗事業
本部川内センターの協力でスタートしました。
毎週木曜日が買い物を含めた楽しい集まり
になっています。

南大隅町佐多辺塚東地区の公民館配達

2024年3月、南大隅町佐多辺塚東地区で公民館配達が
始まりました。これは地区内に商店がなく、現状、自家用
車に頼っている買い物が困難になった時にどうするか？の
地域課題に対し、コープの配達を利用することで解決で
きないかというニーズに応える形で地域の方の協力のもと
実現しました。



伊佐市大口山野地区での 商品お届けの支援

2023年12月から伊佐市大口山野地区にある、
地域の有志で立ち上げたミニストアー山野
「楽しそう」に商品お届けを行っています。
地域にあった商店が閉店したことを受け、
近所の方が集まり、買い物できる場を作り
たいとの要望から、共同購入の商品をお届けし、
利用いただいています。



お買い物送迎

2022年11月にコープ西陵店でお買い物送迎をスタートさせました。専用のサポートカーも導入し地域のお役立ちとなっています。コープ吉野店では、社会福祉法人麦の芽福祉会との共同事業としてお買い物送迎を行っています。



お弁当宅配

管理栄養士監修のもとカロリーや塩分を計算して調理された「体にやさしいお弁当」を日替わりでお届けしています。また、食べやすさで選べる「介護食」や、体調に合わせて選べる「健康管理食」もご用意しています。宅配エリアも鹿児島市・日置市・姶良市・霧島市・湧水町・鹿屋市・垂水市・志布志市・曾於市・大崎町・東串良町・肝付町・錦江町・薩摩川内市・いちき串木野市・さつま町・出水市・阿久根市・長島町と広がりました。

離島特販事業

多くの離島を有する鹿児島県。生協コープかごしまでは、離島に住む方々にもコープ商品を利用していただけるよう、鹿児島県内の定期便のある有人離島へ船便で商品を配送する「離島特販事業」を行なっています。

コープフェスタ2023

2023年12月3日(日)に「コープフェスタ2023」を開催し、約6千人が来場しました。

みて きいて コープを知ろう! 楽しもう!!をテーマに「コープフェスタ2023」をかごしま県民交流センターで開催しました。鹿児島県内の生産者・メーカーをはじめ、北海道、長崎、佐賀からも生産者が参加され、商品の販売や試食を行いながら消費者と直接触れ合うイベントを通じ、コープ商品の事やつくる側の想いを知っていただく機会となりました。トラック試乗体験やバイオディーゼル燃料取り組みの紹介ブースもあり、生協コープかごしまの事業や取り組みの紹介も行いました。またバター作り体験参加者へ呼びかけを行い、後日、農場での乳しぼりやブラッシング、子牛へのミルクあげなどの酪農交流会も実施し体験を通して、酪農の現状を考える機会となりました。



ピンクリボン運動

9～10月のピンクリボン月間に合わせ、コープ化粧品の売上から寄付を行いました。

全国の生協では、認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)「ピンクリボン運動」に賛同し、期間中のすべてのコープ化粧品の売上から1品につき1円を寄付しています。2023年度の募金総額は、全国で1,091,679円となりました。認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)は、すべての人に乳がん検査の必要性を啓発する団体です。乳がんの正しい知識を持っていただくとともに、患者さんとその家族へのサポートを通して、明日の健康な社会を残すことを目標に活動しています。

2030年ビジョン第4の柱

「コープSDGs行動宣言」の活動を進めること

核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します。地球温暖化対策を推進し再生可能エネルギーを利用・普及します。世界から飢餓や貧困をなくし子どもたちを支援する活動を推進します。ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します。



6.17 平和のつどい

1945年(昭和20年)6月17日、鹿児島市で大空襲があり、多くの人が命を落としました。この悲惨な体験・記憶を風化させないために、生協コープかごしまは、毎年6月17日に「平和のつどい」を行い、空襲体験の語り継ぎを続けてきました。2023年度は、オンライン参加含めて230人が参加しました。空襲体験の語り部の発表や、伊集院高校演劇部による、三島村黒島を舞台にした特攻隊の話の演劇を鑑賞しました。

平和学習会

生協コープかごしまで行った最近の平和企画のDVDや平和紙芝居、平和図書といった資料の貸し出しを行い、活用が進んでいます。夏休みを利用した平和学習会では13ヶ所200人の参加で「戦争でいいことは何もない、命が何より一番大事」「ウクライナの戦争が早く終わって」などの声が寄せられました。



ピースアクションinナガサキ

2023年度は、コロナ禍で中止していた「長崎平和の旅」を再開し「ピースアクションinナガサキ」にも参加予定でしたが、台風接近のためやむなく中止しました。オンライン企画では、78年前に起きた核兵器の怖さや原爆被爆者の方の体験談の話を聞き、平和について考え、核兵器のない社会を作るためにはどのような行動を取っていくのかについて学びました。

憲法学習会

年間を通して憲法学習会を県下各地で行っています。日本国憲法の基本的な内容やその重要性、憲法問題について学ぶ「憲法学習会」を県下各地で行っています。講師として大学の先生や弁護士などの協力をいただきながら進めています。2023年度は国分のみ1会場で開催しました。オンライン開催やサテライト会場の試みが進み、76人の参加者がありました。

ユニセフお年玉募金・平和募金

1979年の国際児童年から始まった生協のユニセフ募金。1984年から毎年1月にお年玉募金として取り組み、鹿児島県ユニセフ協会を通じて贈呈しています。これまで寄せられた募金額は累計で1億円を超える金額となりました。また平和募金は、誰でも参加できる平和の取り組みとして進めています。生協の平和活動の費用として、鹿児島県原爆被爆者協議会への寄付などに活用されています。

募金活動(2023年度実績)

●ユニセフお年玉募金
----- 1,950,401円

●平和募金
----- 1,854,547円

10月～11月はCO・OP×レッドカップキャンペーン



毎朝温かい給食を提供

飢餓に苦しむ子どもたちに、学校給食を届ける活動。



地球の飢餓を救え
WFP
国連世界食糧計画

全国の生協は、国連WFP(世界食糧計画)協会を通じて、飢餓に苦しむ発展途上国の子どもたちに学校給食を届ける活動を行っています。キャンペーン期間中、対象商品1品につき1円を国連WFP協会に寄付しています。2020年度からは、ミャンマー連邦共和国への支援が始まりました。全国の生協での募金総額は6,397,244円になります。

〈対象商品〉
コープカップヌードル
など15品目



2010年11月よりスタートした取り組みです。「CO・OPコアノンロール」シリーズを1パックご購入いただくごとに1円がユニセフを通じてアフリカのアンゴラ共和国に寄付されます。

コアノンロールでアンゴラ共和国の子どもたちに学校を。

コープのトイレットペーパー「コアノンロール」。1パックのご購入につき1円がユニセフに寄付され、アフリカのアンゴラ共和国で「子どもたちにやさしい学校づくり」をする活動として、教師の育成や安全な水の整備、トイレの設置などに使われています。2023年度の取り組みでは全国の生協で15,203,160円の寄付を行いました。

第14期キャンペーン期間 2023年11月1日～2024年10月31日(通年)

アンゴラの子どもの状況

●5歳未満児の死亡率
----- 出生1,000人あたり69人

●慢性的な栄養不良に苦しんでいる5歳未満の割合
----- 38%

●教育を受けていない子どもの割合
----- 5人に1人



Republic of Angola
出典：ユニセフ・アンゴラ事務所
提供資料より

対象商品の一例



1期からの
寄付金総額は
1億5,000万円を
超えました



子どもたちが楽しく学べる環境づくり



教師の育成



安全な水の整備

生協コープかごしまは、「エシカル消費」を推進しています

持続可能なパーム油を目指して

RSPOは私たちの生活を支えるパーム油の、持続可能な調達を応援します。



3-0098-17-100-00

RSPO 認証

CO・OP商品では、パーム油原料のアブラヤシ産地で生じているさまざまな問題の解決を目指すRSPO認証を受けたパーム油の使用を積極的に進めています。

RSPO(Roundtable on Sustainable 円卓会議)は持続可能なパーム油の生産・製造・流通・消費を目的とした非営利組織です。

パーム油ってなあに？

熱帯で育つアブラヤシの実から採れる油で、日本で使われる植物油の1/4がパーム油といわれています。ポテトチップスやパン、即席めんなどの食品、石けん、洗剤、化粧品など、幅広く使われています。



商品の一例



コープの洗剤環境寄付キャンペーン



日本生協連は、2018年からWWFジャパンを通じて、インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農家を支援しています。生産性の低さに悩む小規模農家が、知識・資金不足により農園を拡大するため、さらなる森林破壊が危ぶまれています。そこで、小規模農家の組合を結成、適切な農園管理方法を学び、生産性を高める活動などを実施しています。農家と共に森を守るため、持続可能なパーム油生産を進めていきます。



商品の一例



2024年度キャンペーン期間

2024年5月21日～2025年5月20日(通年)

支援を通してできる活動の例

1 保全するべき森を把握するトレーニング 2 農家の生計が向上する仕組みづくり 3 地方自治体の政策策定支援

取り組み内容

1 対象商品1品をお買い求めください → 2 1品につき0.5円をWWFジャパンに寄付 → 3 持続可能なパーム油の生産などを支援する活動につながります。

2022年度(2022年5月21日～2023年5月20日)全国の生協での寄付金総額

312万1,378円

※P16・17の全国の生協の動きについては、日本生協連発行「コープのエシカル2024」より引用しました。

つくる責任つかう責任の例 プラスチック問題のエシカル

プラスチック包材の環境問題に 対応するには？



つくる側



つかう側

プラスチックと 賢く付き合ひましょう

リデュース

少なくする
ごみを減らす

リユース

再利用する
繰り返し使用する

リサイクル

再生利用する
なるべく捨てない

● ペットボトル回収機

プラスチック資源循環促進法が2022年4月1日から施行されました。これは製品の設計から廃棄物の処理まで、プラスチックの商流全てにおける資源の循環等の取り組みを促進するための法律です。生協コープかごしまとしては、SDGsの目標にある「つくる責任 つかう責任」の立場からも積極的に取り組むべき課題と考え、一部店舗(南谷山店、城西店、谷山店、荒田店、宇宿店、西陵店、田上店)でペットボトル回収機(ボトルスカッシュ)の設置を行っています。回収するペットボトルは、決められたもの(蓋なし、ラベルなし、透明、水洗いされたボトル、2ℓ容器まで)を投入すると、回収機にて1/3

に減容されます。

また2023年度からはペットボトル回収の際、1本あたり0.2円をユニセフ募金、環境募金、離島特販運賃基金の中から希望するものを選択し、寄付できる機能が搭載されました。一方寄付はせず、リサイクルのみを選択された場合は、ペットボトル回収機の維持に活用されます。ペットボトル回収機で回収したペットボトルは、回収業者にて収集いただいたあと、トレイ製造業者に有償で買い上げていただきます。その後は再生トレイとしてリサイクルし、製造業者から回収業者(トレイの納入業者でもある)を経て、その再生トレイを生協コープかごしまが仕入れて組合員さんへ商品供給します。再生品

には『ペットボトルリサイクル品』の刻印がつきます。リサイクル品でもバージンペットボトル使用のものとはほぼ同価格です。また、エコトレイは3層になって(外、中、外)、食品に接する外部分はバージンペットになっています。ペットボトル回収機のコストは、生協コープかごしまでの『レジ袋無料配布中止に伴う販売代金』が活用されています。



● 包装容器等のリサイクルの推進

生協コープかごしまでは、組合員とともに様々なリサイクル活動を行なっています。

店舗にリサイクルコーナーを設け、包装容器や廃食油等を回収。また、共同購入や個配利用の場合は、配達職員がカタログや包装材を回収しています。集められた資源は、リサイクルして再活用されます。

(リサイクル量の推移)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
廃食油 : kl	53	54	63	70	69	66.2	63.6	59.1	50.8	50.6
ペットボトル : t	81	88	90	92	143	100.7	27.6	27.1	23.5	22.1
アルミ缶 : t	43	44	42	41	43	82	78.7	75.7	69.6	60.6
牛乳パック : t	27	40	40	31	33	33.5	35.2	38.8	37.7	35.8
発泡トレイ : t	29	30	29	29	30	22.8	18.7	19.4	23.2	23.9
たまごパック : t	7	8	3	3	4	18	17.7	17.7	18.5	19.7
集品袋 : t	25	24	24	23	21	21.6	25.2	25.2	23.7	24.0
カタログ : 10t	142	137	131	130	134	145.1	139.7	141.5	144.3	141.2

ペットボトルのリサイクルは2019年10月1日より行政による資源ごみ回収を組合員に呼び掛け、鹿児島市内店舗のみ実施になりました。

● 環境募金

生協コープかごしまでは、「環境募金」として店頭で募金箱を設置。組合員の協力で集まった募金(2023年度は294,552円)をお店のリサイクルコーナーの維持管理や地域の環境保全をすすめる団体への支援に使っています。



環境募金の贈呈

始良市で干潟を守る活動を行うNPO法人「くすの木自然館」を支援しており、「環境募金」から贈呈を行いました。



環境デー・クイズラリー

毎年6月5日の「世界環境デー」には、お店で環境クイズを実施し、組合員とともに環境への意識を高める活動をしています。

● マイバッグ(買い物袋)持ち寄り運動の更なる推進

レジ袋は石油を原料に使う上、製造時やゴミとして処理する時にCO2を排出します。そこで生協では、買い物の際にマイバッグを持参してもらう「マイバッグ運動」を推進しています。

※2020年6月5日よりレジ袋有料化をスタートしました。2020年度は持ち寄り率が26%引き上がり、約470万枚のレジ袋の使用を減らすことができました。これはCO2を286.7kg減らした事になります。2023年度の持参率は前年より0.2%減少しました。

(レジ袋使用枚数、買物袋持参率の推移)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
枚数(万枚)	805	860	876	873	873	718	247.1	152	162	167
持参率(%)	49	42	50	49.8	51.7	59.3	85.4	84.9	84.1	83.9



●ろすのんポイント～食品ロスを減らす新しい取り組み

コープのお店では、おもに消費期限管理のため、商品毎に基準を設け、期限が迫っている商品に「値引きシール」を貼り「まだ美味しく利用できる」「早めに召し上がるならこちらを選んでほしい」の気持ちを込めてご案内しています。そのことが廃棄による食品ロスをなくすことにつながります。生協コープかごしまでは、2020年6月から、この「値引きシール」が貼ってある商品をご購入いただくと「ろすのんポイント」を付与しています(1日に1回・組合員カード提示の方のみ)。この「ろすのんポイント」が40ポイントたまると、レジで100円の値引きができる「コープの満点券」を発行しています。



▲コープのお店で値引きシールの商品を購入されると「ろすのんポイント」が付いてきます。

食品ロスの削減にご協力お願いします。

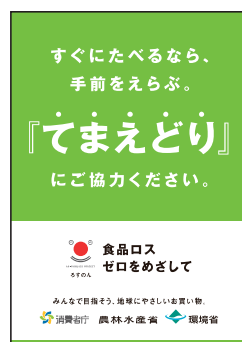


食べものに、もったいないを、もういちど。
NO-FOODLOSS PROJECT

生協コープかごしまは、5省庁(消費者庁・文部科学省・農林水産省・経済産業省・環境省)が推進する「食品ロス削減国民運動」に協力しています。「ろすのん」はそのロゴマークです。

●「てまえどり」運動

生協コープかごしまでは、現在「てまえどり」運動を推進中です。小売店舗が消費者に対して、商品棚の手前にある商品を選ぶ行動を呼びかける取り組みです。食品産業から発生する食品ロス削減のためには、食品事業者(ここでは生協コープかごしま)の食品ロス削減の取組だけでなく、消費者(ここでは組合員)に食品ロス削減へのご理解、ご協力をいただくことが欠かせません。日頃のお買い物の中で、購入してすぐに食べる場合には商品棚の手前にある商品等、販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ「てまえどり」をおすすめすることで、販売期限が過ぎて廃棄されることによる食品ロスの削減が期待できます。



●温暖化防止自主行動計画と省エネ対策

省エネ効果の高いリーチインショーケース(扉を設けた冷凍冷蔵ケース)やLED照明への切り替えなどを積極的に進めています。太陽光発電施設は始良発電所をはじめ出水店・かのや店・始良店・かせだ店・川内店・国分店・宇宿店・田上店と増えてきました。引き続き生協コープかごしまとして「再生可能エネルギー」への転換を進めています。



●廃食用油リサイクルの取り組み

生協コープかごしまでは2023年12月から、廃食用油を「バイオディーゼル燃料(以下BDF)」へリサイクルする取り組みを始めました。組合員が持ち寄った廃食用油や店舗惣菜の廃食用油を回収し、始良市に建てた自前の工場ではBDFを精製、配送車両の燃料にしています。これはSDGsをより具体的に進めていくための取り組みの一つで、独自で定めた温室効果ガス削減計画の達成と地域循環型リサイクルの構築が大きな目的になります。前段階として取り組んだ「B30実証試験」では、計4台のトラックで30%濃度のBDFを使って1年間配達を行い、走行データや燃料フィルター、オイルのサンプルなどを資源エネルギー庁へ提出しました。配達現場や整備会社の方々にご尽力いた

いたお陰で問題なく実証試験を終え、このたびBDF 100%での運用を始めることができました。現在は16台ですが、今後、運用台数を増やしていきたいと考えています。また、運用開始に合わせて職員や組合員向けに学習会なども開催しており、参加された方からは「天ぷら油がこんなキレイな燃料になるのを知ることができて良かった」、「温暖化防止のために廃食用油のリサイクルに協力したい」などといったご意見をいただいています。



第53回通常総代会 特別決議

誰もが安心して暮らし続けられる社会を目指して みんなで学び、みんなで行動していきましょう

ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルとパレスチナ自治区のガザ地区での紛争によって世界の平和が脅かされています。国際社会において平和の危機が深まる一方で、日本政府は鹿児島県を含む南西諸島への軍備強化を進めています。馬毛島では自衛隊基地の整備が進み、鹿屋航空基地でも自衛隊による無人偵察機MQ9Bの新たな試験運用、さらにさつま町にも弾薬庫が計画されており、私たちが目指す戦争のない平和な暮らしが脅かされていることが、残念でなりません。

また、異常気象による記録的な猛暑、干ばつ、豪雨や地震などの自然災害は暮らしに大きな影響を与えています。同様に高止まりしているエネルギー価格や円安などによる物価高の影響を大きく受け、私たちの実質賃金は2年連続で減少し、暮らしの厳しさが続いています。

こうした平和や環境問題の中、生命の危険、食物生産の不安定な状態が引き起こされ、安定した食料供給が難しい状況となっています。日本の食料自給率はカロリーベース38%と半分以上を輸入に頼っており、食料自給率の引き上げは国民の命と暮らしを守るうえで最優先の課題です。

また、年金・介護・医療などに関する国民一人当たりの負担割合は今後も増加していくことが懸念される状況です。本来あるべき税のあり方やその使われ方について注視していくことが必要です。

来年2025年は「戦後80年」の節目の年です。生協コープかごしまが掲げるスローガン「よりよき生活と平和のために」、「安心して暮らし続けられる地域社会のために」の実現を目指して、「できるときに、できる人が、できることで参加」を基本に、組合員どうしがつながり理解を深めながら、以下のことに参加することを呼びかけます。

組合員のみなさんに呼びかけます

①

牛乳、たまご、米をはじめとした商品の学習に取り組み、生産者を応援し県内産自給率を引き上げましょう

②

年金・介護・医療などの社会保障費や軍事費、消費税について学習し、暮らしに直結する税の在り方や使われ方に関心を持ちましょう

③

「戦後80年」に向けて平和の取り組みに参加し、戦争を放棄し戦力を持たないと定めた憲法の大切さを学んで平和を守り続けましょう

以上決議します。

2024年6月25日

生活協同組合コープかごしま第53回通常総代会

「より良い生活を実現するために、お互いに助け合い、声や力を寄せ合う組合員による協同の組織」が生協（生活協同組合）です。

生協コープかごしまは「よりよい生活（くらし）と平和のために」「ひとりがみんなのために みんながひとりのために」をスローガンに、1971年に鹿児島県市民生活協同組合（鹿児島県民生協）として誕生した、鹿児島の消費者一人ひとりが手をつなぎあい、自分たちの願いを実現するために作っている自発的な「協同」「助け合い」の組織です。

願いを実現するために、組合員自身がさまざまな取り組みをすすめる組織（集まり）を作り、またより多くの人が参加する取り組み・イベントを組合員自身の活動として準備し、実行しています。

組織概要（事業所等）

※数値は2023年度末のものです。

正 式 名 称	生活協同組合コープかごしま
設 立	1971年4月1日
供 給 高	335億737万円
出 資 金	113億1,119万円
組 合 員 数	34万3,600名
職 員 数(約)	一般職員398人、専任フル職員88人、定時・アルバイト1,775人
理 事 長	上城 秀人
事 業 所	●本部：鹿児島市（鹿児島市広木一丁目1番1号） ●共同購入事業所：8センター（鹿児島市大峯団地・松元、南さつま市加世田、指宿市、鹿屋市、薩摩川内市、姶良市、伊佐市菱刈）と4事務所（曾於市岩川、阿久根市、西之表市、奄美市） ●店舗事業：19店（鹿児島市10店、薩摩川内市、指宿市、鹿屋市、南さつま市加世田、志布志市、霧島市国分、姶良市、出水市、日置市伊集院） ●福祉事業：県内3か所（鹿児島市、薩摩川内市、鹿屋市） ●後方施設：産直センター（鹿児島市）、商品検査センター（鹿児島市）

事業内容

- 1. コープ商品と産直品の予約注文配達の「共同購入事業」
- 2. 組合員個人のお宅に直接商品を配達する「個別配達事業」
- 3. 生鮮食品やコープ商品を中心に毎日の食卓の材料を提供する「店舗事業」
- 4. 「小さな掛け金で大きな保障」お互いさまの気持ちで組合員の立場に立って保障する「共済事業」
- 5. 「助け合い」の心を大切に介護支援やヘルパー派遣を実施の「福祉事業」
- 6. 住宅リフォーム、車検、冠婚葬祭等の斡旋、生活全般をお手伝いする「利用事業」および「100円ショップ ザ・ダイソー」ならびに「各種保険」取り扱い（※関連会社（株）コープサービスにおいて展開）

市町村別組織状況

※数値は2023年度末のものです。

